

氏名	Nattapat Sarobol	
学位の種類	博士（社会福祉学）	
学位記番号	甲第 83 号	
学位記授与の日付	2022 年 3 月 18 日	
学位授与の要件	学位規程第 3 条第 4 項該当	
学位論文題目	The Development of an Effective Program for Promoting the Model of Active Aging in Thailand Utilizing a Care Prevention Program from Japan	
論文審査委員	審査委員長	有村 大士
	審査委員	小原真知子
	審査委員	贄川 信幸
	審査委員	竹内 幸子
	審査委員	菱沼 幹男

題目： The Development of an Effective Program for Promoting the Model of Active Aging in Thailand Utilizing a Care Prevention Program from Japan (タイにおけるアクティブエイジングの促進を図るための効果的なプログラム開発－日本の介護予防事業プログラムの活用を通して－)

氏名：Nattapat Sarobol

要旨：

The study aims to explore the model for developing the active aging program in Thailand via the effective program in Japan and Thailand. The data were compiled by using in-depth interviews from 16 respondents for evaluating Care Prevention Program in Japan and Health Promotion Program in Thailand. Questionnaires and the forum meeting were used to investigate factors affecting the effectiveness of program in the central region of Thailand. 250 respondents who were policy makers and staff responded the questionnaires. The results showed that the program in Japan was focused on community development, and there was a consultant system from professionals. Frailty checking is one of strong points as it helped the older adults to become aware of their problems whereas, in Thailand, the program was established through Community-based Approach. Friend encouragement, utilizing the community resources and network led to strong participation and the program's effectiveness. It was also found that the volunteer system is the co-factor in both countries. The quantitative data were analyzed by using Structural Equation Model (SEM). It revealed that the model had a good fit $\chi^2(21, N=250) = 26.849, p = .176, \chi^2/df = 1.279, CFI = .999, TLI = .996, RMSEA = .033, SRMR = .018$. Five indicators influencing the outcome of the programs included 1) operation team 2) activities design 3) self-participation 4) family participation and 5) community participation. Therefore, operational staff should place importance to raising awareness, encouraging participation of the older adults' family and their community. Frail Checking should be provided for free access in all dimensions.

【審査結果の要旨】

1 審査委員の構成と審査の経過

博士論文審査は、日本社会事業大学大学院学則、同学位規定及び同博士後期課程修了細則に基づき、第3次予備審査及び最終審査から成り立っている。審査委員は、社会福祉学研究科委員会にて選任された大学院担当の専任教員5名が担当した。5名の氏名と専門分野は以下のとおりである。

審査委員長	有村 大士	子ども家庭福祉、児童相談所、市町村における子ども虐待対応
審査委員	小原眞知子	ソーシャルワーク理論・援助技術開発、保健医療福祉領域
審査委員	贄川 信幸	精神保健福祉、プログラム評価、支援プログラムの普及
審査委員	竹内 幸子	福祉で用いる統計学、理論物理学
審査委員	菱沼 幹男	地域福祉、高齢者福祉、コミュニティソーシャルワーク

2021年10月30日までに提出された第3次予備審査博士論文について、審査委員がそれぞれ精読し、11月25日の公開口述試験を行った。2022年2月17日の社会福祉学研究科委員会にて審査委員会の結果報告を受け、博士（社会福祉学）の学位を授与するにふさわしいとの提案がなされ、了承を得た。

本学学長は、これらの手続きを経て、2022年3月18日に「博士(社会福祉学)」の学位を与えることとした。

2 博士論文の評価

アジアにおける高齢化の対策は喫緊であり、特に健康寿命の延伸は重要な課題である。本研究の研究目的は、タイ国において、高齢者の効果的健康増進プログラムのあり方は、今後の高齢化対策においても国レベルでの大きな課題であり、日本の介護予防プログラムを手がかりに、タイ国におけるアクティブエイジングのプログラム開発を行うことである。

本研究は緻密な先行研究の検討のもとに作業仮説を設定し、3段階に分けて調査が実施された。第1段階は探索的な質的研究として、日本とタイにおいてプログラムを実施する職員へのインタビューを行った。第2段階は、第1段階の調査結果を踏まえ、タイにおいてプログラムを実施しているスタッフを対象とした量的調査であった。第3段階では、プログラム立案に関するコミュニティ内のフォーラムを実施し、作成したモデルの精査を行った。

アクティブ・エイジングを含む概念を整理し、健康増進プログラムにおけるアクティブエイジングの特性を踏まえたプログラム理論（ロジックモデル）やエコロジカルモデルの検討を行い、日本とタイにおける効果的アクティブエイジングのプログラムを立案に影響を与える5つの指標を提示できたことは大きな成果である。また、ミックス・メソッドを活用し、インタビュー調査と質問紙調査から、論理モデルの構成要素間の関係を実証できた。本論文はタイ国の高齢者のための健康増進プログラムを発展させる上で、大きな意義を有し、今後の高齢者福祉の発展に寄与できるものと考えられる。

【1. 研究目的の明確さと重要性】

アジアにおける高齢化の対策は喫緊であり、特に健康寿命の延伸は重要な課題である。本研究の研究目的は日本の介護予防事業を手がかりに、タイ国でアクティブエイジングのモデルを作成し、それに資する要因を明らかにすることである。また、アジアにおいて高齢化が先行する日本において行われているプログラムを手がかりに、タイ国の高齢者のための健康増進プログラムの発展に寄与できる点で、極めて重要である。

【2. 研究方法、分析方法、論述の適切さ、倫理的配慮】

本研究では、丁寧な先行研究の検討の元で、日本の介護予防事業における「地域づくりによる介護予防推進支援事業」に着目し、アクティブエイジング、及びその論理モデルを作成した。更に、日本2カ所、タイ2カ所の合計4カ所を調査対象とし、その効果的な要因を検討した。また、タイ国にお

ける質問紙調査とその統計解析において、構造方程式モデリング（SEM）により効果モデル案の妥当性を予備的に実証し、タイ国での介護予防活動のモデルとその強みを明らかにした。さらに、タイ国において、コミュニティ内での実践家とのフォーラムを行い、モデルの精査を行った。

記述において、因果関係が明確に示されており、またミックス・メソッドによりその妥当性を高めている点など、信頼性が高い。

なお、調査は日本社会事業大学社会事業研究所の倫理審査委員会を受け、承認を受けた上で実施された。

【3. 研究結果のオリジナリティと社会的意義】

プログラム理論とエコロジカルモデルの視点をいながら体系的に可視化したことには意義がある。さらに、量的調査を用いて仮説モデルを検討し、意見交換会にて支援者と共有して解釈したことにも意味があった。

特に、効果的アクティブエイジング・プログラムの立案に影響を与える5つの指標を特定し、提言を行ったこと、加えてエコロジカルモデルを組み込んだプログラム理論により active aging と、それを可能にするロジックを可視化したことなどは特に評価できる。

【4. その他】

第3次予備審査の指摘事項について、適切に修正がなされている。審査員の質問に対して的確に対応しており、研究者としての資質の高さが伺えた。

3 最終試験の評価

博士論文においては、先行研究の丁寧な分析のもと、研究仮説を設定し、ミックス・メソッドを活用し、量的研究、質的研究を的確に組み合わせた論理展開がなされていた。帰納的・演繹的アプローチを的確に使用し、審査員の質問に対して的確に対応しており、研究者としての資質の高さが伺える。また調査第3次予備審査の指摘事項について、適切に修正がなされていた。

また、論文においては、アクティブ・エイジングを含む概念を整理し、健康増進プログラムにおけるアクティブエイジングの特性を踏まえたプログラム理論（ロジックモデル）やエコロジカルモデルの検討を行い、日本とタイにおける効果的アクティブエイジングのプログラムを立案に影響を与える5つの指標を提示した。また、構造方程式モデリング（SEM）を活用し、論理モデルの構成要素間の関係について実証した。本論文はタイ国の高齢者のための健康増進プログラムを発展させる上で、大きな意義を有し、今後の高齢者福祉の発展に寄与するものと考えられる。

以上の理由により、博士号の水準に十分達していると判断する。